

令和4年度 大田区立矢口小学校 学校経営方針

令和4年4月1日

大田区立矢口小学校 校長 井上光広

※下線は昨年度から修正、加筆した内容

1 学校の教育目標

豊かな心をもち 未来を主体的に切り拓いていく意思と行動力を備え、国際都市大田に日本人としての誇りをもって生きていくことができる人間を育てる。

- よく考え進んで学習する子ども
- いつも元気でじょうぶな子ども
- 心豊かでやさしい子ども

2 学校の教育目標を実現するための基本方針

人権尊重の精神と社会貢献の精神に基づき、児童一人一人に「確かに学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」を培うことを通して「生きる力」を育成し、教育目標の具体的な推進を図る。

さらに、「おおた教育ビジョン」など、区の施策を受け「学力向上」「人間力の育成」「体力の向上」を柱として「一人一人に向き合う教育」を推進し、地域と共に歩む国際都市大田にふさわしい学校づくりを行い、信頼される「我が町の学校」となることを目指す。

そのために、学校のもつ教育資源（人、もの、地域、伝統精神など）を最大限に活用し、「子どものために真剣に取り組む学校」「子どもの成長のために、大人がその何倍も成長する模範を示す学校」の実現に向けて、全教職員が「日々新たにして、また日に新たなり」の言葉を支えにし、教育活動の改善を図っていく学校でありたい。

3 目指す学校像

(1) 未来の社会に貢献できる児童を育成する学校

児童が社会の中心者として活躍するのは28年後の未来、2050年である。自分自身の志をもち、それを心の柱とする生き方を身に付けることで、急激な社会の変化に対応し、答えなき問題に答えを出していけるような力を高め、児童が未来社会で貢献できる資質を養う。

(2) 児童の意欲を引き出す学校

意欲あふれる児童の姿は、輝くほどに美しい。常に学校教育目標（合言葉 よ・い・こ）の実現を意識して教育活動に取り組むことで、「学ぶ意欲」「健康への意欲」「人のために行動する意欲」を引き出す。

(3) 安全で安心できる学校

生命・安全・健康に関することはすべてに優先する。安全で安心できる学校生活を継続するために、全職員が様々な角度から学校を客観視し、心身共に危険を未然防止できる危機管理意識の高い学校を目指す。

(4) 保護者や地域に信頼される開かれた学校

学校の存在基盤は地域である。学校・家庭・地域がともに手を携え、ともに地域の子どもを育てることが重要である。そのために、学校の垣根を低くし、保護者や地域に開かれていかなければならない。教育活動を効果的に伝え、信頼を得られる学校を目指す。

4 目指す児童像

◎学校精神「矢口魂」の意味を深め、日常的に実践する子ども

（2028年の薫泉小学校創立150周年に向け、学校精神を高める）

◎「何のため」を常に自分に投げ掛け、自問自答し、向上心に満ちた子ども

（意味を見出し、問い掛ける習慣）

○よく考え進んで学習する子ども（よ）

- ・何事も自発的、積極的に取り組み、最後までやり通す子ども
- ・自ら学び、自己の力を高めようとする子ども

○いつも元気でじょうぶな子ども（い）

- ・健康で元気な子ども
- ・好んで体を動かす子ども
- ・自分の心身の健康を自ら守る子ども

○こころ豊かでやさしい子ども（こ）

- ・礼儀正しく、けじめのある子ども
- ・思いやりがあり、人に優しく、人のために自分の力を使う子ども

5 目指す教師像

【教師は最高の教育環境、太陽のような存在でありたい】

(1) サービスの厳正（勤務時間、研修、文書・金銭管理、体罰・暴言等）

- ・迅速で確実な報告、連絡、相談を習慣化する。
- ・信頼される教職員であるべく、サービスの厳正を図る。
- ・自らを律し、個人情報保護及び適正な管理、守秘義務の厳守を励行する。
- ・職員相互でサービス事故を防止する意識を高め合う。

(2) 人権尊重意識の高い教師

- ・教師は、子どもの人権を守る。互いの人権を守らせる。
- ・子どもはできなくて当たり前である。失敗から多くを学び、健全な集団となるよう問題解決する。
- ・学級は、子どもたちにとって心の居場所であり、自分を精一杯発揮し、表現できる場でなければならない。いじめが起きたりや異なったものを排斥したりする冷たい学級であってはならない。

(3) プロとしての自覚をもち、常に児童の意欲を引き出す授業を目指す教師

- ・授業改善サイクルを意識し、昨日の自分より今日の自分が優れ、今日より明日の自分が優れているように努力する。前例踏襲を打破し、より高きを目指す。合い言葉は「日々新たにしていって、また日に新たなり」（『大学』より）
- ・PDCAサイクルに加えて、「TEFCASサイクル」を使えるようにしたい。

【TEFCASとは】

S (Success 成功イメージ) → T (Trial Try-all 全試行) →

E (Events 試行した出来事) → F (Feedback 周囲の助言) →

C (Check 助言のチェック) → A (Adjust 調整) → S (Success 成功)

- ・学んでいる子どもの脳内で、何が起きているのかを理解して指導する。（脳科学の活用）
- ・発問、板書、ノート指導、思考ツール、情報端末機器の活用の工夫をする。

(4) 子どもへの愛情を注ぎ、子どもの成長を喜ぶ教師

- ・個々の子どもの成長を見取り、その子にふさわしい指導をする。
- ・子どものよさを見付け、認め、褒める。（承認・賞賛 マズロー「欲求5段階説」を活用）

(5) 社会人としての常識を意識する教師

- ・学校内だけで判断せず、広く社会から学び、社会の信頼を勝ち取る。
- ・誠実で真摯に対応する姿勢を持ち続ける。

(6) 教育目標の実現に向けて、互いに協力し、補完し合うチーム矢口小学校を意識した教師

- ・一人で解決できない課題は力を合わせて対応する。困っている時はお互い様である。
- ・担任、養護教諭、専科担任、講師、支援員、巡回教員、スクールカウンセラーなどの連絡・相談・協力を十分に行う。

(7) 地域や保護者と連携し、信頼される教師

- ・保護者との連絡・協力を十分にとる。
- ・アンテナを高くし、小さな情報も素早く正確に把握する。
- ・保護者や地域の期待を受け止める。

6、今年度の重点目標

◎大田区「未来ものづくり科」新設に向けてのSTEAM教育カリキュラム開発

- ・大田区教育委員会研究指定校として「未来ものづくり科」新設のための研究活動を行う。
- ・学ぶ意欲と高め合う協働力が高い児童の育成を目標とする。
- ・「探究」をキーワードとし、児童も教員も、学ぶことを愉しめる授業を展開する。
- ・「ものづくりは人づくり」である。常に相手意識や外部意識のある活動を行う。

◎体力の向上と健康の増進

- ・系統的な体育指導を実践研究し、児童の体力向上を図る。
- ・一校一取組の「縄跳び指導」に加え、体力向上に向けた全校的な取組（持久走・矢口サーキット運動など）を開発し、実施する。
- ・児童の健康増進のために、保健指導・食育・がん教育・感染症防止教育などを行い、自己健康衛生管理能力を高める。

◎人権意識やコミュニケーション能力の向上

- ・校内研究と連動して、課題意識をもち、聞き取る力や情報解釈力などを育成する。
- ・自分の考えや思いを、他者に分かりやすく積極的に表現する力を育成する。
- ・教員や保護者といった、児童を取り巻く大人側の「児童の思いを受け止める」周辺環境を整える。
- ・「人権の花運動」に取り組み、人権意識の高揚を図る。

◎未来型授業（GIGAスクール構想連動）の開拓

- ・1人1台端末機のPC環境を最大に活かし、コンテンツよりもコンピテンシー重視の新たなスタイルの授業を開拓する。
- ・デジタルポートフォリオの有効性を活かし、記録・振り返り・自己調整力・自己変容・向上心・メタ認知といったキーワードを意識しながら、児童のより良き成長に結び付ける。
- ・登校できない状況の児童に対しての学びの保障として、オンライン授業を行う。
- ・プログラミング思考（論理的思考力）の育成を積極的に行う。

◎ESD及びSDGsを軸としたカリキュラムマネジメント

- ・本校の最大の特色である「地域とともに」を合い言葉に、2030年までの中期目標を意識したESD及びSDGsとして、矢口自然農園での系統的な継続的な学習活動を全学年で行う。
- ・5年生の「お米プロジェクト学習」を核（コア）としてカリキュラムマネジメントし、STEAM教育を行う。

◎芸術分野の教育としての「学校俳句」指導

- ・日本学校俳句研究会の指導の下、全校で定期的に俳句創作に取り組むことで、語彙の増加を中心とした言語能力の向上を図る。
- ・各種俳句コンクールに応募することで、児童の創作意欲を高める。

7、目標実現のための具体的方策

学 習 指 導	(1) 知力を高め、自ら学ぶ習慣を付ける（よく考え進んで学習する子ども）
	「確かな学力」の定着を目指し、基礎的・基本的な学習内容や望ましい学習態度を確実に身に付けさせ、生涯にわたって学び続けるための学習の素地を育成する。
	大田区教育委員会の施策である「未来ものづくり科」について、全体計画や年間指導計画を作成し、地域に根差したものづくり教育を推進することで、児童の郷土愛を育む。
	「未来ものづくり科」の研究と授業実践を通して、さまざまなものごとを探究していける児童の能力を高める。
	企業や外部研究団体、外部協力者と連携し、STEAM教育を進める。
	「主体的・対話的で深い学び」を実践し、Society5.0時代に対応する教育の推進を通して、自らの力で課題を解決し、学んでいこうとする児童を育成する。
	各教科において基礎・基本の定着を図る指導を行う。

学 習 指 導	指導計画に基づき大田区ステップ学習や東京ベーシックドリル等を活用した計算・漢字等の習熟学習を充実させる。加えて、デジタル化教材を有効活用する。
	学級担任と読書学習司書、学校図書館支援員との連携による読書指導を充実させる。
	読書ボランティアや教員による読み聞かせを活用した朝読書を推進する。
	言語感覚の向上を目指し、俳句、川柳、短歌、百人一首、カルタ作りなどの日本語の伝統的言語文化を通して指導する。家庭や地域、外部団体と協働した学びになるように工夫する。各種コンクールに応募する。
	算教科において2年生から習熟度別学習を行うと共に、可能な限り小さなグループに分かれ、児童個々に応じた少人数算数指導を展開する。
	学習カルテを活用し、その成果を夏季休業中に児童・保護者との三者面談による学習カウンセリングで共有し、豊かな学びにつなげる。
	学年内の交換授業（教科担任制など）を実施して 学習指導体制を工夫し学年指導体制の強化を図る。
	学校や地域環境（矢口自然農園・矢口渡商店街・多摩川など）を有効活用した生活科、総合的な学習の時間を実施して、愛校心や地域愛を育む。
	I C T機器を学校と家庭で日常的に活用し、効果的に学習できるようにする。
	G I G Aスクール構想実現のため、タブレット端末を活用した協働的学習を増やす。
	Society5. 0の社会に向けた児童の論理的思考力や対応力を伸ばすため、プログラミング教育を行う。
	新学習指導要領に基づいた外国語指導を外国語指導員（A L T）と連携して進める。
	外国語指導員（A L T）と連携した「英語カフェ」を実施し、具体的体験を通して、授業で身に付けた英語力の向上を図る。
	大田区教育委員会の施策である「理科教育」について、理科専門指導員と連携しながら理科に特化した学力向上策を立て、高学年では教科担任制とも連動させながら理科教育を推進する。
	毎日の家庭学習では学年×10分を習慣化する。また、自学ノートや家庭学習ノートなどの活用により自主的に学ぶ態度を育成する。
	（2）体力を高めるとともに、心身の健康を増進する（いつも元気でじょうぶな子ども）
系統的な体育指導を実践研究し、児童の体力向上を図る。	
運動の日常化・習慣化を目指し、児童の遊びの中に運動文化が定着するよう指導を工夫する。	
中休みを活用して体力の向上に資する運動に取り組ませる。	
一校一取組の「縄跳び指導」に加え、体力向上に向けた全校的な取組（コーディネーショントレーニング・適切な予備運動・持久走など）を実施する。	
体育での集団活動を通して、自他ともによさを認め合ったり、協力し合ったりする態度を育成する。	
健康増進のために、保健指導・食育・がん教育・感染症防止教育などを行い、児童自身による健康管理能力や衛生管理能力を育む。	
オリンピック・パラリンピックのレガシー教育を継続する。特に伝統文化については、俳句や落語などの伝統的言語文化を児童に体験させる。また、奉仕活動と連動して体験的にボランティア活動を行う。	
大田区小学校駅伝大会の取組を活用し、走ることの楽しさや目標に向かって努力する意欲を高める。	
学校医の先生方と連携した健康教育（喫煙防止教育・感染症防止教育・歯磨き指導など）を推進し、児童の健康に対する意識を高める。	

	「早寝・早起き・朝ご飯」を奨励し、基本的な生活習慣の形成に向けた取り組みを進める。
	NPOの協力を得て、魚に関する食育を推進し、児童の食に対する意欲を高める。

	(1) 徳力を高める(心豊かでやさしい子ども)
	他者との健全な関わりを目指し、相手を思いやった行動ができるとともに、公平公正な態度で行動する人間性を育成する。
	全校児童のために何ができるかという他者意識を高める指導を行う。(全校朝会での挨拶、委員会活動、各種行事での他学年意識)
	特別の教科道徳の授業を要とし、日常の生活指導や特別活動ともリンクさせ、道徳教育の充実、道徳的実践力の向上に努める。
生活指導	本校の伝統である「あいさつ、返事、けじめ」などの指導を徹底し、礼儀・礼節を尊ぶ意識を育成する。児童が自ら「矢口小あいさつ日本一」だと言える学校にする。
	対話力・会話力を高め思いやりの心情を培うために、適切にコミュニケーションを行おうとする意欲と態度を育成する。
	人権尊重教育において、「人権の花運動」「人権標語」「人権ポスター」「人権習字」「人権川柳」などの取組を実施し、児童の人権意識を高める。
	「大田の子どものポスター」を教育目標と共に全教室に掲示し、授業規律や矢口スタンダードを浸透させ、生活規範意識を育成する。
	自主的・自発的に時間を守ろうとする態度の育成を目指す。高学年児童が下級生を指導していくことができる異学年の関わりを大切にする。(ノーチャイムの継続)
	学校全体で児童の様子を丁寧に見取り、必要に応じた指導を行う。さらに学校生活調査(メンタルチェック)を定期的に行うとともに、担任との面談の機会を確保して児童の心情理解に努める。また、6月と11月を「子どもの心サポート月間」とする。
	大田区いじめ対策条例に基づいて、いじめ不登校防止校内委員会を中心に、いじめ防止に向けた取り組みを推進し、いじめ防止基本方針に基づき迅速な対応をする。

	なかよし班活動や委員会活動、クラブ活動を通じた異学年での交流を通して、望ましい人間関係を形成する。
	勤労を尊び、奉仕的な活動に積極的に取り組む意欲を高める。(地域清掃など)
特別活動	学習内容に位置付いた校外学習、遠足・宿泊学習の実施をする。
	運動会や矢口文化芸術展(芸術劇場)の開催に向けて、長期的計画による平素の学習を通して学年集団を育成し、心の開かれた総合的な表現活動を行えるようにする。
	学級での諸問題の解決や、節度ある生活、安全な行動、望ましい食生活など、児童相互に学び合える学級経営を行う。
	キャリアパスポートを活用し、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を養う。

	特別支援教育を推進し、個の実態に応じた指導を行う。すべての児童は個性に応じて支援する必要があるという指導観を教員はもつよう心掛ける。
	支援を要する児童の指導に当たっては、当該児童と保護者への配慮と支援を適切に行うとともに、関係機関(スクールカウンセラー、教育センター、公的支援機関、医療機関など)との連携を密にして教育活動や相談体制の充実を図る。
特別支援教育	個別指導計画の作成や巡回指導教員と学級担任と連携等を充実させ、特別支援教室(サポートルーム)での指導と在籍学級での指導の連動性を高めて、児童のコミュニケーション能力の向上を図る。
	支援を要する児童への合理的配慮、ユニバーサルデザインを意識した人的・物的環境作りを行う。
	巡回指導教員を講師とした教員研修を行い、特別支援教育に関する学校としての指導力向上を図る。

	<p>特別支援員・生活指導支援員・登校支援員・保健室支援員などによる個別支援体制を、副校長・特別支援コーディネーター・特別支援教室専門員による調整の上、効果的に組んでいく。</p> <p>学級での学習に参加しづらい児童の居場所作りを全校体制で検討し、安心感のある学校生活を保障できるよう努める。</p>
--	---

地域・外部機関連携	(1) 開かれた学校づくりの推進
	ホームページ、学校・学年だよりなどの学校広報を活用した学校理解者・支援者の拡大をする。
	保護者会、個人面談等を通して、保護者との連絡・連携を密にとり、信頼関係を築く。
	児童や保護者のPTA行事への参加を促し、心温かな地域性を継続することに努める。
	社会情勢に応じた、新たな学校とPTAや地域との連携のあり方を構築する。
	非常時の適切な対応を行う。緊急連絡メールの積極的な活用を図る。
	地域との連携を図り、地域行事への児童の積極的な参加を促す。
	避難所としての機能の充実を図り、より安全でユニバーサルデザインの施設に改善する。
	(2) 学校評価の実施による、学校の改善
	毎学期、あるいは各行事実施後に個別の評価・反省をし、年度の途中であっても改善のための柔軟な変更をしていく。
地域・外部機関連携	学校評価（自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、地域教育連絡協議会による第三者評価）を実施し、その結果を公表し、次年度の学校改善に活かす。
	(3) 関係機関との連携
	やぐち応援隊（学校地域支援本部）を核として地域とつながる学校づくりを推進する。
	やぐち応援隊・PTA等と協力し、児童の夏季休業日中の学びの場としてのサマーワークショップを開催する。
	矢口東小学校、安方中学校との連携を図り、小中一貫教育を推進する。
	副籍している児童に対しては、必要な交流を進めていく。
	保育園や幼稚園との連携を図り、就学に関する情報交換を密に行う。
	大田区教育センター、子ども家庭支援センター、都児童相談センター、蒲田西特別出張所、警察署、消防署、民生児童委員、青少年委員などの関係機関との連携を太くして、学校としての総合的な危機管理レベルを高める。

学 校 運 営	(1) 職員の能力向上を目指した働き方改革の推進
	主幹会議による中・長期的見通しをもった学校運営を行う。
	主幹教諭、主任教諭を軸とした「報告・連絡・相談」の体制を継続する。
	自己申告による具体的な目標設定、評価（可能な限り数値目標化する）を実施する。
	校務分掌の責任ある実施をし、さらに年間を通して働き方改革を目指した効率化を行う。
	会議の精選で授業準備時間を生み出す。
	時間外勤務時間は月45時間（日2時間15分）、年間360時間を超えないことを目標とする。
	(2) 校内研究、校内研修、OJTの推進
	「研究の日常化」を合言葉に、効果的な研究・研修の実施と授業改善を行う。
	児童の体力向上・健康増進に向けた教員の指導力の向上を図る。
教員相互の校内授業公開による指導力の向上を図る。	

	<p>学年を超えた「ペアOJT体制」や「グループOJT体制」により、教員間の重層的な指導体制を作り、チーム矢口としての教職員集団作りをする。</p> <p>校外の研修（区教研など）や研究発表会、<u>模範授業</u>などへの積極的参加と校内還元により指導力を高め合う。</p>
	<p>（3）学年、学級、専科経営の充実</p> <p>全職員で全児童を指導する意識を徹底する。</p> <p>副担任制を取り入れ、複数の教員による効果的で、目の行き届いた指導を行う。</p> <p>着実な週案の作成・提出と効果的な活用をする。<u>職務の進行管理能力を高め、児童を丁寧に指導する余裕を生み出す。</u></p> <p>支援を要する児童への配慮、合理的配慮、ユニバーサルデザインを意識した環境作りを行う。</p>
	<p>（4）危機管理の徹底</p> <p>高い意識で事故の未然防止を堅持する。（「本当に大丈夫か」を合い言葉にした安全点検・施設管理）</p> <p>災害時に対応できる判断力ある児童の育成をするために、避難訓練実施後の見直しを毎回行い、随時改善を図る。</p> <p>危機管理マニュアルを徹底し、さらに随時見直しを行う。</p>
学	<p>事故への迅速で適切な対応をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> →首から上への怪我は病院受診が原則。管理職に必ず報告する。 →時系列の事故対応記録を必ず取る。 →大田区教育委員会への即時報告と連携を行う。
校	<p>安全で美味しい給食の提供をするため、食物アレルギー対応や異物混入防止など、確実に 行う。</p> <p>防災計画・避難所運営計画の周知、随時見直し、訓練実施に向けて体制を整える。蒲田西特別出張所との連携を太くする。</p>
運	<p>サービス事故 絶対「0」の徹底をする。</p>
	<p>（5）その他</p>
営	<p>適正な会計処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の私費購入計画立案と管理職による決済、保護者会での提示、会計報告 ・学納金銀行引き落とし制度の適正運用 ・出納簿の確実な記載 <p>学校予算の効率的活用、適正執行をする。（数年間を見通した教材整備など）</p> <p>学校教育目標を元にした学年・学級目標を設定、充実した経営のために、原則として1年ごとの学級編成替えを継続する。</p> <p>周年行事に関して、2026年に135周年記念行事を実施した後、薫泉小学校創立の1878年に創立年度を変更して、2026年を創立148周年とし、2028年に創立150周年行事を実施するための準備委員会を開始する。</p>